

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 14	福山市立松永中学校
最終更新日		2023年(令和5年)2月15日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価報告書ではすべての項目で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。 ・評価指標は数値だけでなく、子どもの実態でも評価したほうがよい。 ・ICT教育に向けて、先生方は大変だろうが前に向けて進められるよう頑張してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査では、多くの学校が全国平均を下回っており学力の定着に課題がある。 ・同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。「わかる」と「できる」の認知の差が大きい。 ・素直な子どもが多いが、表現力など本当の意味での自己肯定感が弱い。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども <p>・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。</p> <p>・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。</p>
--	---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域社会で活躍し、その発展に寄与することができる知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え学ぶ意欲的な生徒 ・主体的に活動し、自ら成長する生徒 ・豊かな心を持ち、地域から応援される生徒
<p>学校教育目標</p> <p>主体性と自己肯定感を育み、社会で通用する生徒の育成</p>	<p>テーマ</p> <p>研究</p> <p>主内容等</p>	<p>「自ら考え学ぶ授業」の創造 ～ 学力定着と結びついた主体的な授業、ICTの活用 ～</p> <p>国語・社会・数学・理科・英語</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ルールを意識的に守ろうとする生徒は増えてきている。 ○あいさつ運動等を仕組んできた結果、あいさつに対する生徒の意識が向上した。 ●基礎的な学力が十分でないため、自分たちの思いや考えを表現することが難しい →主体的な学びにならない。 ●学んだことをどう生かしていくのか、どう使っていくのかということが分かっていない生徒が多い。またその知識を他教科で使っていくことができなかつたり、日常と関連付けて応用することができていない。 ●家庭学習(勉強の仕方)の習慣が十分に身に付いていない。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒が「分からないこと」を「分からない」と授業の中で言えない、「分かったフリ」のまま授業を進めている。 ●生徒主体の学びの授業と学力定着にこだわった授業づくりが課題である。 ●授業の中で話し合いをさせても、させるだけで終わっている授業がある。集団で交流ができる時間を十分に設けられていない。 	<p>めざす授業の姿</p> <p>【知識・技能】 自らが学んだ知識や技能について、文章でまとめる習慣が身につけられている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 課題解決に向け、自らの考えや課題解決のための方法を見出すための時間や手立てが講じられている。</p> <p>【主体的に学ぶ力】 興味・関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられるような題材(教材)が提供できている。</p> <p>【自己形成力】 振り返りで、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追及課題を見出させている。</p>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
1	自ら考え学ぶ 授業づくりを 進めて、学ぶ 意欲と学力を 向上させる。	★	見 直 し	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題解決型の授業」全教科展開を着実に進めていく。 ・効果的にICT機器を活用した指導方法を研究していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に思いや考えを表現でき、お互いに学び合える授業を構築する。 ・各教科の授業において、デジタル教材を利用し、個に応じた課題を解決することにより基礎学力を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査①「授業で自分の思いや考えを表現できたか」、②「学び合いの授業でわかったと実感できた場面があったか」肯定的評価85%以上 ・アンケート調査「試験勉強や家庭学習でタブレットを利用した」肯定的評価 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析を行い、授業改善を行った。自分の言葉で説明する言語活動を授業の中で積極的に仕組んだ結果、記述式の正答率が昨年度より上がった。アンケート結果 ①90.4% ②94.7% ・各教科の特性に合わせてICT機器を活用し、活用事例集を作成した。アンケート結果73.7% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の分析や学びの伸び調査の見方・考え方について全教職員で共通認識をもち、教職員もお互いに授業を交流できる場を設定する。 ・小中一貫教育 ICT部会と連携し、各教科での効果的な活用方法について研修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析に基づき、全職員で授業改善シートを作成するとともに、授業交流を行い、事後研修において成果や課題を共有した。アンケート結果 ①85.7% ②95.9% ・校区各校のICT活用の取組を紹介し各教科の中で効果的な活用方法（デジタル教科書等）を模索し、反映した。アンケート結果75.7% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修した内容を各教科に対応させ、来年度のカリキュラムマップを構築していくとともに、校区合同研修と連携して、本校生徒の実態に合わせた取組を進めていく。 ・デジタル教科書の導入を各教科で振り返り、活用教科の幅を広げていくとともに、活用方法を研修していく。
1	児童・生徒の 自己肯定感を 高める。	★	見 直 し	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が自分の得意なことや役割を理解し、自己有用感を得ることで自己肯定感を高めていく。 自ら率先してあいさつをすることができる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった授業や行事を展開し、成功体験を積み重ねていく。 ・生徒会や部活動を中心に、あいさつの取組を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート調査「学級・学校に対する満足度」を90%以上にする。 ・アンケート調査による「自ら進んであいさつができる」を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の授業や体育大会などを生徒主体で行った。アンケート結果84.1% (昨年度75.4%) ・生徒会を中心に登下校の際にあいさつ運動を毎日行った。アンケート結果88.8% (昨年度84.1%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった授業や行事の計画をさらに細かく仕組んでいく。 ・引き続き、あいさつ運動を展開し、生徒が自信を持ってあいさつができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、生徒が主体となった授業や活動、行事を仕組み生徒に適切な役割分担をすることができた。アンケート結果84.3% ・生徒が主体となり積極的にあいさつ運動を展開することで、多くの生徒が登下校の際に校門に立つようになった。アンケート結果89.6% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に信頼され、生徒が自立した学校にするために、生徒の主体性を高める授業や活動を生徒と共に構築していく。 ・あいさつに関する指標が向上しているため、今後は「質」にこだわった指導を生徒会とともに考案していく。

<p>1 教職員の資質・能力の向上を図る。</p>	<p>★ 継続</p>	<p>学びをつくる教職員のための場（校外・校内研修）を充実させる。</p> <p>日々の仕事の中で充実感（達成感）を得られている教職員の満足度を向上させる。</p> <p>保護者・地域の学校教育に対する満足度を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に業務改善に取組み、生徒と向き合う時間、授業改善のための時間を生み出していく。 週1回の定時退校日、週2回の部活動休養日の取組を行う。 HPの更新や各種通信の発行を定期的の実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査により「学校内の活動について、失敗を恐れず挑戦することができている」の肯定的評価が90%以上 アンケート調査による「仕事に意義ややりがいを感じている」の肯定的評価90%以上 時間外勤務時間が月45時間以上の教職員が0人 保護者アンケートにおける保護者の学校満足度(肯定的評価)が85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにおける肯定的評価は、78.6%であった。 アンケートにおける肯定的評価は、85.7%であった。 部活動の大会で勝ち上がることが多く在り、45時間以上の超過勤務が教職員の6割程度となっている。 アンケート結果により、肯定的評価が84.7%であった。 	<p>3</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在、取組途中の授業改善やICTの研修等で得たものを教職員全体で共有する等個人の挑戦を応援し職場全体で工夫していく。 業務の平準化を図り、超過勤務減少に努める。個々の業務改善、効率化をさらに進める。 引き続き、HPの更新や各種通信の発行を続け、丁寧な保護者対応で信頼関係を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT技術やテストの自動採点ソフトの研修等を行い、教職員自ら研修を企画し提案している。アンケート結果78.0% 業務の効率化の工夫を主体的に生み出す動きが教職員から出てきた。アンケート結果87.0% 45時間以上の教職員が平均で4割。直近の1月では3割に減少した。 アンケート結果の肯定的評価は84.3% 	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個のアイデアや技術を全体に広げられるよう、チームとして研修を企画するような仕組みづくりをする。 平日1日・休日1日合計週2回の部活休養日を徹底するために、前月中旬に土日の部活動計画を各自立案し月45時間以内の勤務になるよう承認制とする。 HPの更新も各学年で担当を決め、タイムリーに情報発信できる体制づくりをする。
---------------------------	-------------	---	--	--	--	----------	----------	--	---	----------	----------	----------	---

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。